

遊美

- 1 靱山 定子さんの作品と作品についての言葉
- 2 新副館長のご挨拶 鈴木 忠男
ギャラリートーク
- 3 作家探訪 アビルショウゴ先生
- 4 国内美術鑑賞旅行
デッサン講習会
- 5 美術講座 30年のあゆみ
- 6 友の会からのお知らせ
訂正／あとがき



気がつくと、ひょっこり顔をだしている草や木の芽。沈んでいた気持ちが晴れやかになって、忘れていたメロデーを口ずさみながら歩いている。時には立ち止まって、高木の揺らぎを眺めていると鳥がさえずっている。足元には、小さな花が咲いている。「一生懸命生きているの・・・」と、私に話しかけてくる様に。

そんな時アー・・・なんて平和なのだろうと、大自然の営みに感謝する。

私の藍染の絞り作品は、自然の中の形をデザインに頂いています。藍液で染めた後の、糸解きは緊張します。そして水でよくすすぎ終えた時の偶然性に喜びを感じます。

一人になっても寂しくないようにと、この道に私を導いてくれた亡き夫に感謝しつつ、昔一緒に散歩した同じ道を今ゆっくりと歩いています。

(水戸市在住)

靱山定子「カンブリア紀の繁栄」

2018年／綿別珍 藍染絞り(一部柿渋染)
158×80cm／改組新5回 日展

遊美

- 1 戸田和子さんの作品と作品についての言葉
- 2-3 美術鑑賞旅行
- 4 作家探訪 竹江都志子先生
- 5 美に遊ぶ
- 6 会員のためのギャラリートーク
荒磯親方トークショー
友の会 今後の行事予定
あとがき



この作品は2011年3月15日開催予定だった【いばらき現代人形作家100人展】の為に制作しました。搬入の数日前3・11東日本大震災が発生。会場である県民文化センターが被災し中止となりました。幸い翌2012年1月に開催する事が出来ました。

出展者115名の450点を超える作品群は多くの来場者を魅了しました。その時出展した『月を抱く海 深く蒼く』は想いの深い作品となりました。

モデルは映画「ジュ・テーム・モワ・ノン・プリユ」で女優ジューン・バーキンが演じる少年の様なジョニーです。身体を捻って振り返る立ちポーズ、彼方を見つめる瞳の中に私の記憶の断片である壮大な漆黒の海原に抱かれています。蒼い月の光を重ね合わせました。拘ったのはその「瞳」です。1996年NIADA（全米人形作家協会）Conference（ダラス）に参加した際出会った“義眼”を使用しました。義眼のサイズから全体像を割り出し、身長115cmの作品が完成しました。

（ひたちなか市在住）

戸田和子「月を抱く海 深く蒼く」

2010年／石塑粘土・モヘア・義眼／115×50×31cm
写真撮影 油谷 勝

游美

- 1 内山節子さんの作品と作品についての言葉
- 2 作家探訪 荒木久夫先生
- 3 美に遊ぶ
- 4 美術鑑賞旅行
- 5 ギャラリートーク
デッサン学習会
- 6 中川純一氏講演会
緊急連絡／訂正／あとがき



内山節子「希望」

2019年／油彩・カンヴァス／F30号

友の会誌「游美」の表紙に、私の作品を掲載するようにとの連絡を頂きました。大変嬉しく光栄な事でございます。

高齢化社会を迎え、私もこの「游美」が皆様のお手元に届く頃は83歳の誕生日がまいります。毎日の生活は健康で他人様に迷惑を懸けないよう、自立する生活を送れるよう、努力しています。

絵画の制作を友として40数年、描く事がただただ楽しくて、スケッチブックをかかえての生活でした。そして洋服デザイナーとしての仕事と音楽を奏でる喜びで、「あっ」と言う間の一日が過ぎて行きます。

拙い作品を友の会の皆様にお目にかけて恐縮ですが、反面喜びでいっぱいです。私の人生の最大のエポックとなる事でしょう。

この作品の花束は私の記念日に子供たちが贈ってくれました。元気な花束をみて、急に「希望」という文字が浮かびました。『絵画は気持です』の想いでいっきに描き上げました。この作品で大きな希望を皆様と共有したいと思っています。高齢になっても希望を失わずにがんばりましょう。

(ひたちなか市在住)

遊美

- 1 吉田絹枝さんの作品と作品についての言葉
- 2 前会長、前事務局長のご挨拶
- 3 新会長、新事務局長のご挨拶
- 4 美に遊ぶ
- 5 「名画を読み解く」
心に残る私の一点
- 6 友の会からのお知らせ
あとがき



吉田絹江 ^{しゅうぜん}「終然」

2019年／油彩・カンヴァス／F50
2019年茨城県芸術祭美術展覧会出品

定年を迎えやっと趣味の時間が取れるようになりました。それまで、育児、家事、仕事と時間に追われほとんど自分の自由はありませんでしたが、好奇心は人一倍の私は、絵画、書道、手芸、旅行、音楽、園芸、と興味を持ち、実行出来る日を待ち望んで頑張ってきました。お陰様で趣味を通して沢山の方に出会い、美術館友の会も先輩から教えて頂き、数々の行事に参加して楽しい思い出が出来て、人生が豊かに感じられる生活になりました。

この作品は旅行先でふと目に留まった切り倒され

た丸太たちです。使い道が見つからないのか、畑の片隅、道路際に放置されていました。太陽の光を十分に浴びて伸び伸びと枝を張り、豊かに葉を茂らせていたのであろう幹の力強さ、野鳥が来てさえずり、昆虫たちも蜜を吸いに来ていたかも？ しかし今は思い出をかみしめて土に帰るのを待つかのようです。身につまされた想いで拙い筆を動かしました。激励してくれる仲間や友人、娘たちに感謝しながらこれからも続けたいと思います。

(ひたちなか市在住)